

令和7（2025）年度 第1回子ども・子育て会議 議事録

- 日 時 令和7（2025）年7月4日（金） 14：00～16：00
- 会 場 健康管理センター3階 集団指導室
- 出席委員 植木会長、野中副会長、遠藤委員、平田委員、関沢委員、根立委員、上杉委員
品田委員、南委員、田中委員

【10人】

- 欠席委員 金子委員、田村委員、霜田委員、村井委員 【4人】
- 事務局 中村子ども未来部長
（子育て支援課）村山課長、荒木課長代理、田邊係長、山崎主任
（保育課）笹川課長、細山課長代理、権田係長
（子どもの発達支援課）小山課長代理
（福祉課）若月課長代理、小林主事 【11人】

- 1 開会
- 2 挨拶 会長
- 3 議事 議長：会長

柏崎市こども・若者計画の骨子案等について

資料1-1「柏崎市こども・若者計画の骨子案について」、資料1-2「柏崎市若者の意識に関するアンケート調査集計(速報版)」、資料1-3「柏崎市こども・若者計画の体系(骨子案)」を事務局が説明

委 員

資料1-3の基本理念について「すべてのこども・若者が尊重され…」というところで、小さなこどもが尊重されるのは分かりますが、大きなこどもの尊重とはどのような意味でしょうか。また、基本方針で「結婚してこどもを産むことを安心して…」と説明がありましたが、これは市内で産むことを安心してというニュアンスでよろしいでしょうか。

事務局

このこども・若者計画はどちらかというと支援が必要な若者世代が主な対象となります。

仮に、引きこもり状態であって社会との接点が少ない場合でも周囲から認められ、社会から包み込まれるように大切にされるという意味合いを「尊重」として表現しているものです。

また、「安心」というのは、自信がない自分自身や仲間に対してもお互い尊重していくという気持ちを大切にすることで、自らに自信を持って過ごせるという社会の在り方を意味しております。

委 員

実現性の低い計画ではなく、これからじっくり検討をして頂き、実現性の高いものにして欲しい。

委 員

資料1-1内の「こども・若者のチャレンジの促進」とはどのような促進でしょうか？

事務局

年齢や性別などを始め、今の時代、多様な人々がいる中で、少数の生き方を除外するのではなく、そういう方も含めて支援し、また、障がいのある方々が諦めてきたことを諦めることなく障がいのない方々と同じように生活していくことを後押しすることと考えております。

委員

支援を要するお子さんが増えているということで、支援や効果が必要なことだと思いますが、そこに行き着くまでの生まれた時からの関わりが重要だと現場にいて感じています。

個別の支援が必要と思われるお子さんが私立の保育園などに入園を希望しても、介助員も不足しているため、結局は公立の園にお願いしなくてはいけない状況になっています。

3歳までの乳児期が特に重要な時期であり、そこでしっかり基礎を固めていかないことには、この現状は解決していかないと思います。

事務局

今ほど、3歳までの乳幼児期についてお話がありましたが、妊娠期から出産期、それ以降の0歳から3歳まで相談や教育・保育サービスなどは、第三期の子ども・子育て支援事業計画に基づいて、進めてまいります。そのうえで将来的に困難な状態になる心配のあるお子さんには、個々の状況に応じて必要な支援を推進していく考えであります。

委員

「子ども・子育て支援事業計画」と「こども・若者計画」を一本化した方が良いと思います。

アンケートにおける自由記載には、商業施設の誘致など、子ども・子育て支援計画だけではなかなか実現が難しそうな内容も含まれています。計画を策定するに当たり、関係する部署との連携、足並みを揃えないと実現は難しいと感じています。例えば、お子さんの子育てに関するイベントなどがあるから仕事を休むと、逆に仕事にしわ寄せがいき、結果的に働きにくくなってくると幸福感が下がる可能性があります。計画では総合的な取組を示すことによって、今後も柏崎に住みやすいとか働き続けたいという気持ちに繋がると感じています。

若者の意識に関するアンケートは対象者約6,500人のうち約3割の2,200人で23%の回答率でした。回答の中に「特に不満なし」という意見のチェックをしても良いと思いました。

事務局

子ども・子育て支援事業計画とこども・若者計画は、計画期間の終期を一緒にし、次期計画を策定する時は一つの計画にまとめたいと考えております。

事務局

今の計画の中身の対象範囲が商業や雇用など相当広いという意見を頂戴しました。

アンケートについても様々な分野に跨る内容の回答であり、全てをこども・若者計画に盛り込んで対応しながら進捗管理することは難しいのが実態です。

総合計画は市の最上位の計画であり、子育て、健康、福祉などの分野で遂行していく中の一つの実行計画という位置付けとして、こども・若者計画があります。こども・若者計画は、主に19歳から29歳を中心とする若者に対する支援を中心に考えていただければと思います。

委員

アンケート調査の回収率は23%もあって良かったと思います。ここから本当に支援が必要な人たちに

届くように、課題を整理して計画の素案を作成してほしいと思います。

実際に問題を抱えていらっしゃる方やご家族へのヒアリングを実施し、若い人たちの意見を施策に反映してほしいと思います。

委員

アンケート調査の回答内容を見て、自分も確かに同感するところがありました。商業施設が減少してきているのは、自分の実家の付近でも同じ傾向です。実際に柏崎市内での子育て世帯は増えてきているのでしょうか。

事務局

子どもの出生数も減少していて、柏崎市の場合は結婚される率も県内平均よりも少し低い数字となっています。

事務局

具体的な子育て世帯数の状況についてお答えします。柏崎市内において、平成12年は9,157世帯でしたが、令和2年は6,354世帯でした。この20年間で約3分の2まで減少しています。

委員

子ども・子育て支援事業計画の意義とはどういうところでしょうか。

事務局

柏崎市で産み育てていく方を増やすため、様々な取組を通じて、少しでも人口減少を防ぐことを考えて策定しています。結果として子どもが増えて、まちが活性化することを願っております。

会長

少子化といわれますが、二つあると思います。一つは結婚される世帯数が増え、子どもの数が増えればいいという想い。もう一つは、結婚するかどうか、子どもを産むかどうかは個人の判断で強要するものでもありませんが、結婚したい、子どもを授かりたいと思う方々が、安心して子育てができる柏崎市にするために検証していかなければいけない。この2本立てで考えていただくと、この計画の意味があると思います。

委員

アンケートですが、全体的に回収率が低い印象がありました。

大学でもアンケート調査をしたことがあります。回収がかなり難しいと感じているので、このアンケートの結果も比較的、正しい情報なのかもしれませんが、確実とは言えない数字になっているような印象を受けました。アンケートの内容に関するのですが、「子どもを持つことについてどのように思いますか？」の質問で、男女の立場で意見が違うと思うので、男女別にアンケート結果として出した方がいいと思いました。

「こども・若者の遊び体験の場があると思いますか？」の質問についてですが、場所がないのは分かっていますが、正直、今に始まったことではないと思います。新しく施設を作るにはお金がかかるので、そういったところは市で行うことだと思います。もっと早く対策を考えることができたかなと思いました。

最後に、この計画は柏崎市で生まれて育ったこどもが対象ということでしょうか。

事務局

子ども・子育て計画は市外出身の方も対象となります。どなたでも柏崎市に住み続けたいと思えるような計画にしたいと考えております。また、今回のアンケート結果について、単純集計のものをお示しましたが、今後、クロス集計を含めてしっかりと分析し、その内容についてもお示しする予定です。

4 報告事項（事務局）

- (1) 第二期子ども・子育て支援事業計画総括表の更新について「資料 2」
- (2) 第三期子ども・子育て支援事業計画総括表の体系と対象事業について「資料 3」
- (3) 屋内遊ぶ場施設「キッズマジック」の利用状況について「資料 4」

委員

キッズマジックの利用については、単純に 4 月、5 月で比較しても、リニューアルということもあって数字だけでは評価できないと思います。

継続的な利用に対するアンケートとか、長期計画の内容についてのアンケートを利用者に対して行い、それを蓄積し行っていくことによって、この計画に対してのフィードバックになると思います。

次期計画の策定に当たっても、その都度アンケート調査を実施するよりは、これまで蓄積した調査結果を活用してみたらよいと思います。

事務局

このキッズマジックの有効活用に関しては、今後の課題として捉えています。アンケート調査のみならず、子育て支援策の情報発信の場にも活用できるものとして考えております。

会長

オープン直後は多分好評だと思いますが、半年とか定期的にアンケートとして検証をしたらということもアイデアだと思います。

事務局

時間の経過により、施設の印象も変わってくるところもありますので、継続的な調査は必要と考えております。

委員

私も 3 歳と 5 歳の子どもを連れてキッズマジックに 5 回位行きました。数字だけ見ると利用者が多く、素晴らしいと思います。

リニューアル前のキッズマジックによく行っていました。リニューアル前を知っている人が、リニューアル後に行って遊ぶ印象と、リニューアル後から初めて行った人の印象は、多分違うと思います。

同じ世代の人の話を聞く限りでは、「リピートして行くほどではない」という声は聞きます。

子どもが行きたいから連れて行くというよりは、夏場などは暑いので、連れて行くところがないため、行く場所がないから連れて行く方が強いかなと思います。

今後は、キッズマジックに行きたがるようなイベントなども考える必要があると思います。

事務局

何回もご利用いただくことによって飽きてしまうことは想定されますので、飽きさせないための工夫は重要であると考えております。すでに小規模な企画を始めておりますが、今後も様々な企画を考えていきたいと考えております。

委 員

以前に比べて木の香りと、広々として居心地が良いと感じました。

安全を守るためにスタッフの方がいますが、今後は子育て支援という視点で、もう少し子どもとの関わりを持ってくれるようなスタッフがいたら、さらに期待できる場所になるのではないかと思います。

5 その他 事務連絡等

6 閉会

子ども未来部長

本日は、今年度最初の会議として、策定を予定する「こども・若者計画」骨子案を中心に熱心にご審議いただき、また、皆様から、貴重なご意見を頂戴し、心より感謝申し上げます。

本市でも少子化の流れは進行中ではありますが、その一方で、様々な特性を持つ子どもたちや困難を抱える支援を必要とする家庭は増えてきているように感じています。

個々の状況を把握していく中で、保健、医療、福祉、教育などの分野と連携しながら、必要な支援を切れ目のない体制で進めているところです。

本日、皆様にご審議いただきました「こども・若者計画」の骨子案の中にも、既に進行中の取り組みもございますが、皆様との議論を通じて、より実効性のある計画へと練り上げ、子ども・若者施策全体の、総合的な計画として取りまとめたいと考えています。

引き続き、皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。